



皮膚の感染症

企画：
日本医師会

No. 483

指導：ひふのクリニック人形町 院長 上出 良一

ジメジメした梅雨時、皮膚にはさまざまな病原体（カビ、細菌など）が付きやすくなります。そこで、特に気を付けたい症状を紹介します。

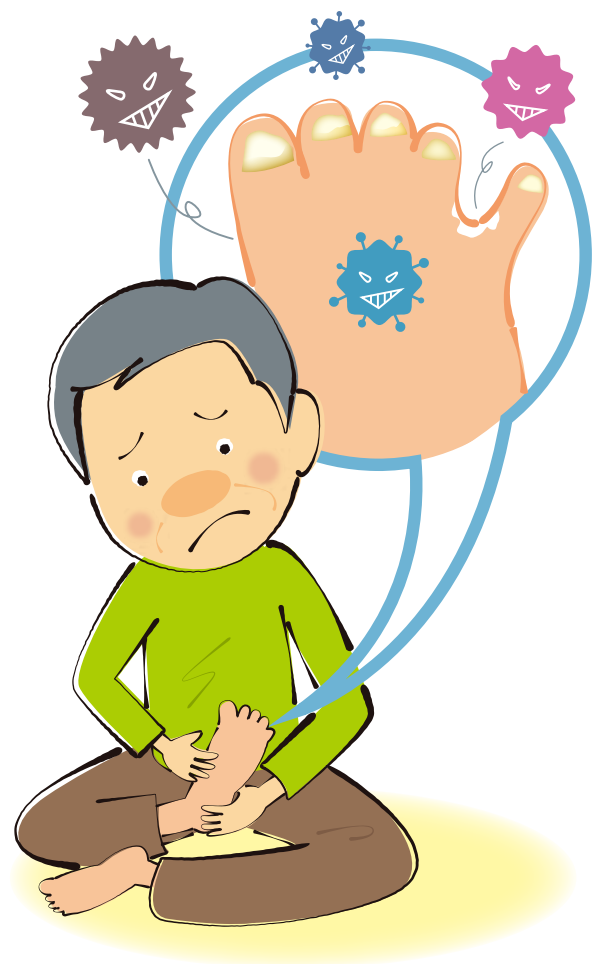
水虫（足白癬） あしはくせん

白癬菌というカビ（真菌）が皮膚表面に寄生することで発症する疾患です。

かゆみを伴う水ぶくれができ、皮がむけます。特に蒸れやすい足の小指の股や足の裏で起こりやすく、小指の股では白くふやけてただれることもあります。正しい治療をしないと、水虫の所がかぶれて感染し、足が腫れ、痛みで歩けなくなることもあります。

予防には、外出から帰った時に、足を洗います。家族に水虫の人がいる場合は、脱衣所などでは別の足ふきマットを使いましょう。

足の皮膚病には、症状が水虫と似ている汗疱（異汗性湿疹）かんぼう い かんせい しっしんや掌蹠膿疱症しょうせきのう ほうしょうもあります。自己判断せずにかかりつけの皮膚科で検査をして、水虫かどうか診断を受け、適切な薬を処方してもらいましょう。



とびひ（伝染性膿痂疹） でん せん せい のう か しん

乳幼児に起こりやすい疾患で、皮膚が赤くただれ、かさぶたができます。

カサカサした皮膚や虫刺されを掻いていると、皮膚に傷がついて、黄色ブドウ球菌という細菌が皮膚の上で繁殖します。掻いていると、どんどん周りの皮膚にうつるので「とびひ」と呼ばれます。

患部が広がる前に、かかりつけの皮膚科を受診し、薬を処方してもらいましょう。

とびひになってしまったら、患部を石けんの泡で洗浄後、シャワーで洗い流し、薬を塗ってガーゼで覆います。症状によっては、菌が繁殖しないよう飲み薬が必要になることもあります。

